

東洋文庫所藏甲骨文字

東 洋 文 庫
古代史研究委員会編

財団法人 東 洋 文 庫

昭和 54 年

東洋文庫所藏甲骨文字

昭和五十四年三月二十三日 発行

非売品

編者 東洋文庫古代史研究委員会

発行者 東京都文京区本駒込二・二八・二二

財団法人 東洋文庫

榎 一雄

印刷者 東京都板橋区桜川二・二七・二二

株式会社 東京プレス

依田 高夫

発行所

東京都文京区本駒込二・二八・二二

財団法人 東洋文庫

本書は昭和五十三年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部に依りて刊行されたものである。

序

東洋文庫は、現在六一四片の甲骨卜辞片を所蔵している。これは林泰輔博士が蒐集所蔵されていたものを、博士逝去後の大正十三年四月に、甲骨関係の蔵書等五三部八八冊と共に御遺族の林直敬氏より購入したもので、その数六三五片、二八二七四とある。

現在、牛の肩甲骨を使用した最大の偽刻一片は、縦四〇・五釐、横三〇釐、高さ六・七釐（合わせ蓋で蓋二釐、身四・七釐）で、斜十字字に貞田紐のかけられた桐箱に納められているが、他は手前に蓋がある桐の本箱を、更に花梨材で同型式に覆った二重の本箱の中にある。本箱の中は十二段に仕切られ、縦横三〇・一釐、高さ三・五釐（板の厚さ各七釐）の桐箱六箱（第一号—六号）、縦横の寸法は同じで高さ五・五釐の桐箱一箱（第七号）、縦横の寸法が同じで高さ六・五釐の桐箱二箱（第八号—九号）と、縦横二〇・一釐で高さ三・三釐（合わせ蓋で蓋一・三釐、身二釐）の桐箱三箱（第十号—十二号）の十二箱が納められている。第一号から九号迄の箱の右隅には、一・二釐に二・五釐、赤い子持罫のラベルが縦にはられ、漢数字で各々に第一号から第九号迄の番号が付され、更にその内側に同じラベルを横にはって、アラビア数字で第一号から順に52・70・60・74・49・14・46・60・12と元の収蔵片数が書かれ、第九号箱の中央に縦一・七釐、横三・五釐の白紙をはり、Total 646と墨書されている。しかし、この数は東洋文庫が購入した時点での数とも若下の違いがある。現在は十一号迄の箱の中に各々下に綿を敷き、第一号から順に52・72・61・70・52・16・40・41・153・45・11片の計六一四片の甲骨卜辞片が収納されている。上には昭和十六年三月の大阪毎日新聞二乃至五日分を折って蓋してある。なお何時の時点での記入か定かでないが、第一号から三号迄の甲骨卜辞各片の裏には、直徑五釐の白い円形の紙がはられ、「i」「i」「i」の如く、箱とその中での番号が記入されている。

この甲骨卜辞片は、大正七年に林博士が河南省安陽の殷墟の遺跡を実施踏査した際に現地で集められたものと、三井源右衛門氏から入手されたものの二つの系統があるらしく、後者の一部は既に公刊されている。次にこれらの刊本と東洋文庫所蔵の甲骨卜辞片との関係を紹介する。先づ、林博士自から編刊された『亀甲獸骨文字』二巻（東京 大正十年七月刊）がある。この書には、版心によると権古齋蔵二二三片、聴冰閣蔵七十九片、綴述堂蔵三一片の計一〇二

三片が収録されているが、三井源右衛門蔵といわれる権古齋蔵品二一三片（巻一 一四〇片、巻二 七三片）の中、東洋文庫に現存するのは一六一片であり、五二片は所蔵していない。

東京の諸家所蔵品をもって作られた金祖同『殷契遺珠』二巻 上海 民国二八年五月刊の巻下、三六丁一〇三六番より八六丁一四五九番にかけての四二四片は、三井源右衛門氏蔵となっているが、東洋文庫に現存するものが多くある。また、この際の残部から作られた同氏『亀卜』一巻 北平・上海 民国三七年一月には一二四片（同書には百二十五片とあり一二五迄番号が付されているが、10と11は同一片異拓で重複である）が収録されているが、東洋文庫には六三片現存する（『亀卜』と『亀甲獸骨文字』の両書に収録されていて現存するもの二六片、『亀卜』のみに収録されていて現存するもの二七片）。なお『殷契遺珠』と、三井氏蔵品等も入る羅振玉『殷虛書契前編』八巻 民国元年刊を含めて、後日校勘の結果を明らかにしたい。

また、郭沫若『卜辞通纂』東京 昭和八年一月序刊の別録之二中に七片の拓影があり、饒宗頤『殷代貞卜人物通考』香港 一九五九年十一月の中にも東洋文庫所蔵の甲骨卜辞片が資料として使用されている。

昭和五十年三月、松丸道雄氏より東洋文庫所蔵の全甲骨卜辞片の調査希望が出されたのを契機に、全片を公刊することにした。本書の断代については、その折の松丸氏の結果に従ったが、手拓、卜問内容の分類、釈文、索引、校勘その他全てを渡辺兼庸が担当した。大方の叱正をお願いしたいが、誤りがあれば全て責任は渡辺にある。

昭和五十四年三月

凡 例

一、東洋文庫所蔵の甲骨卜辞六一四片のうち無文字、偽刻のもの二三片を除いた五九一片の内容を明らかにしたものである。

一、甲骨文字は時代と材料と内容とによって分類収録したが、俄かに時代を決めがたいものについては、時期保留として第五期卜骨の後にまとめた。また異体も最後にまとめ、全体に新たに番号を付した。

一、卜辞の内容は諸説を参照して祭祀、求年、風雨、旬夕、田獵、往来、方国征伐、使令、疾夢、卜占、貞人、雑卜の十二種に分類した。

一、釈文は甲骨番号の順に従って釈したが、下に旧番号も併記してある。

一、釈文にあたって、欠字、釈読不明の文字は口で示し、補足文字は「レ」によって補った。

一、刻文の左行、右行等の相違は、各文の末尾に示した。

一、刻文の行末は「レ」によって劃した。

一、索引の文字は基本的に『説文解字』の順に排列してある。

一、各部首ごとに釈字された文字は『説文解字』にある文字、『説文解字』にない文字、部首別に分類可能な未釈の甲骨文字の順に並べ、部首別に分類不可能な文字は最後に一括した。

一、原則として一字索引であるが、熟語、合文は第一字にあわせて排列した。

一、卜、貞について、全て省略した。下文についても、特別の用例以外は省略してある。

一、巻末に釈字されたものと、未釈の文字それぞれに便宜のため検字表を付した。

東洋文庫所藏甲骨文字總目次

凡例	總目次	圖版	第一期	卜甲	祭祀類	一六	一三	同	同	二八—三三
序			第一期	卜甲	祭祀類	一六	一三	同	同	二八—三三
			同	同	同	七一—八	一四	同	同	三三—四六
			同	同	同	一九—二四	一五	同	卜骨	四七—五三
			同	同	求年類	五	一六	同	同	五五—五七
			同	同	風雨類	二六—二八	一七	同	同	五八—六三
			同	同	旬夕類	三七—四一	一八	同	同	六四—六七
			同	同	田獵類	四二—四六	一九	同	同	六八—七二
			同	同	往來類	四七—五三		同	風雨類	七三—七五
			同	同	方國征伐類	五四—六〇	二〇	同	同	七六—八二
			同	同	使令類	六一—六六	二一	同	同	八三—八六
			同	同	疾夢類	六七—七一	二二	同	同	八七—九五
			同	同	卜占類	七二—七六		同	田獵類	九六—一〇二
			同	同	同	七九—八七	二三	同	同	一〇三—一〇六
			同	同	貞人類	八八—九五		同	往來類	一〇七—一二
			同	同	雜卜類	九六—一〇七	二四	同	方國征伐類	一二—一四
			同	同	同	一〇八—一二七		同		一五—一七

五九	第五期	卜甲	旬夕類	五八—四九	六四	同	同	田獵類	五五—四六
六〇	同	同	同	四九—五〇				往來類	五七—五八
六一	同	同	往來類	五八—五九				雜卜類	五九
			貞人類	五九	六五	同	同	同	五九—五七
六二	同	卜骨	雜卜類	五九—五八	六六	同	同	同	五八—五七
			祭祀類	五八—五八	六七			補遺	五七—五六
			風雨類	五九—五九	六八	時期保留	卜甲		五七—五六
六三	同	同	旬夕類	五九—五九			卜骨		五七—五八
			同	五九—五九	六九	異	卜甲		五八—五八
				五九—五九			卜骨		五八—五九
									五九—五九

釈文(稿)

索引

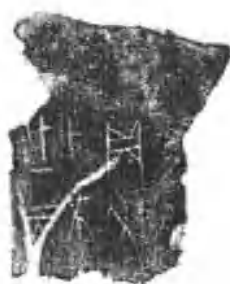
檢字表

已釈字

未釈字



3



2



1



4a



4b



5a



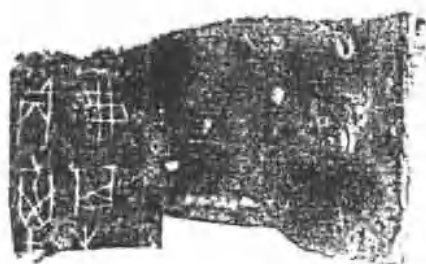
5b



6



7a



7b



15



11



8



16



12



9



17



13



18



14



10



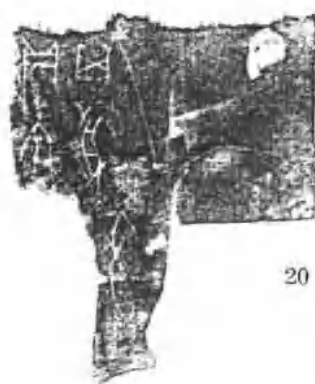
19a



19b



23



20



25



24



21



22



33



29



26



34



30



35



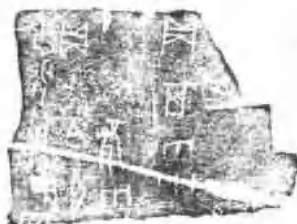
31



27



36



32



28



45



40



37



46



41



38



47



42



43



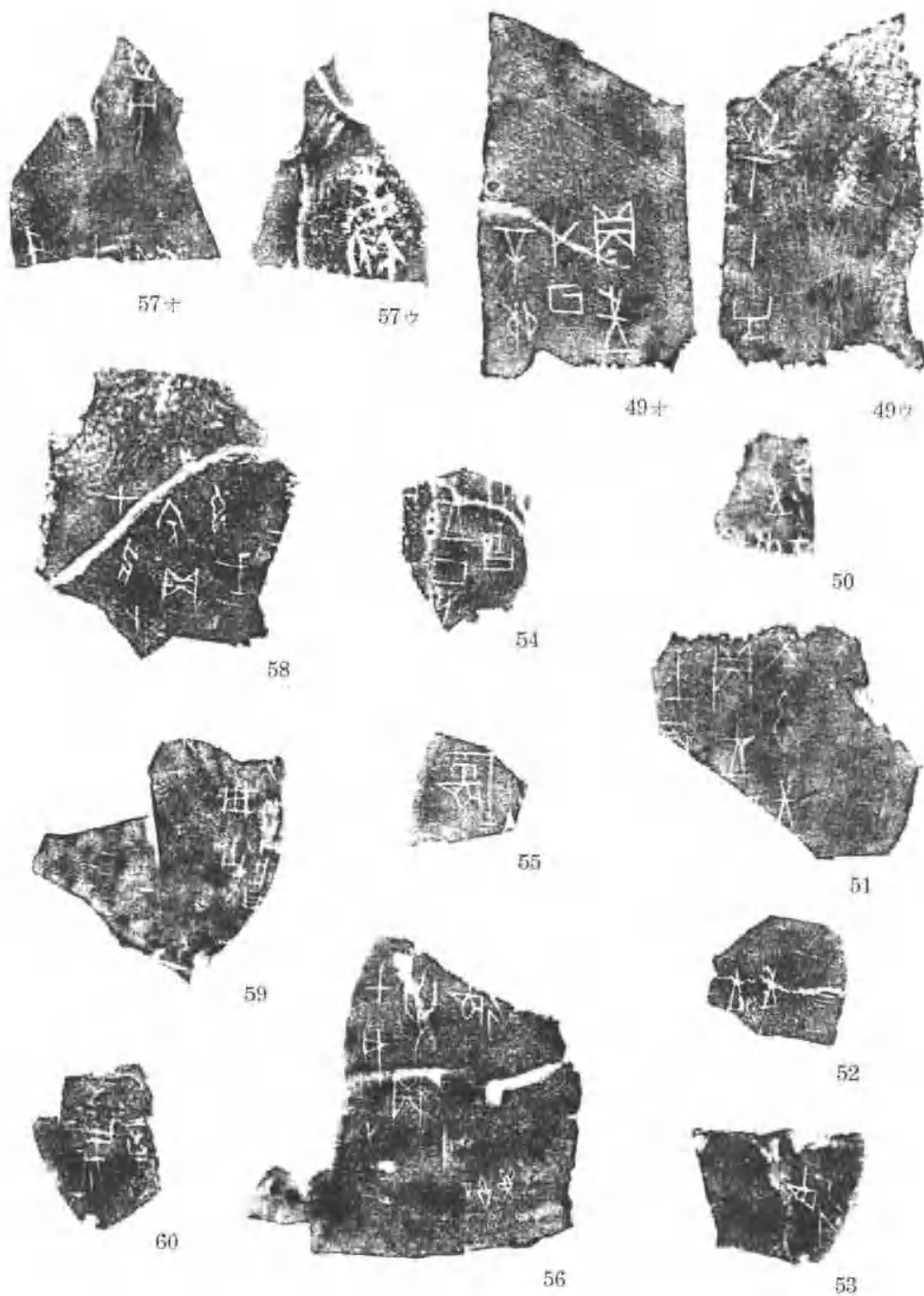
39



48

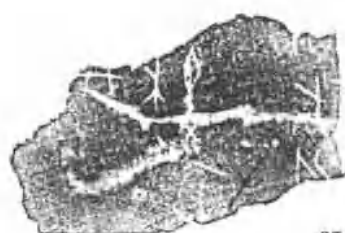


44





69



65



61



70



66



62



71



67



63



68



64



72^ナ



72^ハ



76



73



77



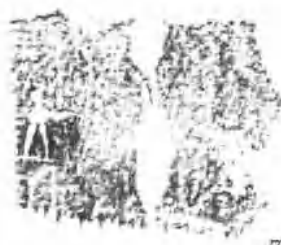
74



75



78^ナ



78^ハ



79才



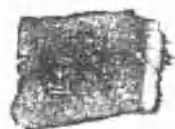
79ウ



86



83



80



84



81



87



85



82